

【不祥事根絶に向けた本校の決意】(行動基準)

- 1 教育公務員として、法令を遵守し、高い倫理観と使命感を持って、職務を遂行します。
- 2 子ども1人1人を大切に、互いに声をかけあい、チームとして信頼される学校・教職員をめざします。

不祥事根絶のための行動計画

福山市立 培 遠 中学校

作成責任者 校長 三宅 幸二

区分	本校の課題	行動目標	取組内容	点検方法・時期
教員の規範意識の確立	<p>○教職員が、不祥事を当事者意識を持って各自の課題として考えるために、研修をマンネリ化・形骸化しないように、さらに方法や内容の改善して行く必要がある。</p> <p>○日常の教育活動の中に、「ヒヤリ・ハット」を感じさせる場面がある。</p>	<p>○服務研修の内容を工夫(例えば参加型のプログラム等)し、すべての教職員に、研修効果を実感させる。</p> <p>○日常の「ヒヤリ・ハット」からみられる課題を全教職員で共有し、常に個々へフィードバックする。</p>	<p>○全教職員が服務研修を分担して、企画・実施する。</p> <p>○全教職員に「ヒヤリ・ハット」も含めたアンケート調査を行い、服務研修の方法や内容等の改善を図る。</p> <p>○スクールカウンセラー等外部の人材を活用し、服務研修を継続する。</p>	<p>○企画者が必ず研修の振り返りを行う。</p> <p>○学期ごとに、全教職員にアンケートを行う。</p>
学校組織としての不祥事防止体制の確立	<p>○チームとしての組織力は発揮できている。各学年・分掌のリーダーは役割を十分に果たしている。この組織力の継続性のために、次を担う人材の育成が必要である。</p>	<p>○チームとしての組織力の強化を図るため、教職員のさらなる信頼関係の構築と人材育成を推進する。</p> <p>○「ヒヤリ・ハット」に気づき、教職員が相互に指摘しあえる風土を醸成する。</p>	<p>○若手教職員の育成をOJTを通して行う。</p> <p>○無関心にならず、声かけしていくことで、チーム培遠として、同僚性の共有・日常化を図る。</p>	<p>○不祥事防止委員会と主任会で進捗状況を確認する。</p>
相談体制の充実	<p>○「体罰、セクシャル・ハラスメント相談窓口」の認知度を高める必要がある。</p> <p>○生徒が積極的に相談できるという相談体制を確立する必要がある。</p>	<p>○「体罰、セクシャル・ハラスメント相談窓口」あらゆる場面で周知する。</p> <p>○開かれた学校づくりをさらに推進し、保護者・生徒から信頼され、何でも相談できる学校体制をつくる。</p>	<p>○保護者・生徒に繰り返し周知するとともに、校内、全教室にポスターを掲示する。</p> <p>○学期ごとに保護者・生徒にアンケートを実施し、体罰・セクハラについて状況把握を行う。</p> <p>○教育相談日だけでなく、日常的に担任を中心に面談や声かけを行うことで信頼関係を構築する。</p>	<p>○アンケートや面談の記録をもとに、継続指導を確実にを行い、毎週開催の生徒指導対策委員会で状況を確認する。</p>